



湾岸・アラビア半島地域ニュース

UAE：太陽光パネル生産計画

(8月21日付現地各紙)

21日付現地紙は、アブダビ・フューチャー・エナジー社(通称マスダール)による薄膜型太陽光発電パネルの生産計画について報じている。以下概要。

1. 20日、マスダールは、同社初となる薄膜型太陽光発電パネルの生産工場を独チューリングン州イヒターシャウセン市に建設すると発表している。同生産工場は、2009年第三四半期の操業開始を目指しており、年間70MW相当の薄膜型太陽光発電パネルを生産する計画である。
2. 同計画では独アプライド・マテリアル社の最新技術を使って世界最大規模となる薄膜型太陽光発電パネルのモジュール(面積5.7m²)を生産し、一般の火力発電相当の発電コスト(グリッド・パリティー)を目指す。
3. 本年一月にアブダビ政府は、マスダールによる新・再生可能エネルギー等の開発に対して総額150億ドルの資金投入を発表している。そのうち、マスダールは薄膜型太陽光発電パネルの生産に20億ドルを投資する予定であり、2.3億ドルを投じて行う同計画は、世界的にみても最大規模の薄膜型太陽光発電パネルの生産工場となる。
4. マスダールは、第1号となるドイツの同計画を青写真として、アブダビにおいても140MW相当の薄膜型太陽光発電パネルの生産工場を、2010年第三四半期の操業開始を目標にして建設する計画である。
5. スルタン・アル・ジャベール・マスダール社CEOは、ドイツは薄膜型太陽光発電パネルの生産に関する高い技術を有しており、さらに気候条件やヨーロッパ市場への展開という観点から望ましく、今後同社が進めるクリーンエネルギー開発の世界展開を視野においてドイツと提携することは重要であるとコメントしている。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799